



2026年2月12日

各 位

会社名 フ ラ 一 株 式 会 社  
代表者名 代表取締役社長 山崎 将司  
(コード番号: 387A 東証グロース)  
問合せ先 経営企画室長 斎藤 駿  
(TEL: 04-7197-1699)

## 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2025年8月12日の2025年6月期通期決算発表時に開示した2026年6月期（2025年7月1日～2026年6月30日）通期業績予想の修正を決定しましたので、以下の通りお知らせします。

記

### 1. 当期の業績予想数値の修正（2025年7月1日～2026年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	2,232	200	187	160	94.36
今回修正予想 (B)	2,056	55	100	113	66.73
増減額 (B-A)	△176	△145	△87	△47	
増減率 (%)	△7.9	△72.5	△46.5	△29.4	
(参考) 前期実績 (2025年6月期)	2,008	189	185	197	121.98

### 2. 修正の理由

中間期の売上高実績は、大型案件終了に伴う稼働率低下を補うための新規案件の取り組み開始時期が失注等により想定より遅れ、当初計画を87百万円下回る結果となりました。なお、売上高の計画未達の一方で、中間期の売上原価は、クリエイティブ人材の増加（前年同期末からの1年間で18名増加）による労務費増加やAI活用によるツール費用増加等により前年同期から増加しており、売上総利益は634百万円（前年同期比22.7%減）に、売上総利益率は33.2%（前年同期比8.5pt減）にそれぞれ低下しました。

下期の売上高見込みについては、直近の受注案件に中小規模の案件が多いこと、既存案件の売上が全般に下振れする見込みであることから、足下の新規案件の交渉状況等を踏まえ、当初計画を89百万円下回る想定としました。

これらを合わせ、通期の売上高は、当初予想から176百万円減（△7.9%）の2,056百万円となる見通しとなりました。

営業利益は、売上が当初想定を下回る影響が大きく、外注費（製造原価）や人件費・諸経費等の費用全般の抑制を図るもの、当初予想から145百万円減（△72.5%）の55百万円となる見通しです。

経常利益は、営業利益減少の一方で、補助金収入を中間期に計上したことにより当初予想との乖離幅が縮まり、当初予想から87百万円減（△46.5%）の100百万円となる見通しです。なお、当該補助金収入は、ほぼ全額が「新潟県未来創造産業立地促進給付金」であり、詳しい内容は本日公表の「営業外収益（補助金収入）の計上に関するお知らせ」をご確認ください。

当期純利益は、直近の状況に照らして税効果による法人税等調整額の見込み額を調整し、当初予想から47百万円減（△29.4%）の113百万円となる見通しです。

以上